

平成30年度 自己評価表

<p>中長期目標 (学校ビジョン)</p>	<p align="center">学び 輝き 感動のある学校</p> <p align="center">幼児・児童・生徒が充実した学校生活を送り、個々の可能性を伸ばし、 よりよく生きることができるようにする学校 《18歳で自立できる人を育てる ～将来を見とおした今のQOLの向上～》</p>	<p>今年度の重点目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 幼児・児童・生徒一人一人が「いきいきと学ぶ」教育に努める。 2 保護者の願いや地域の期待に応える。 3 幼児・児童・生徒の健康と安全を守る。 4 センターの機能を推進する。 5 開かれた学校を推進する。
---------------------------	--	---

年 度		当 初			評 価 結 果 () 月		
評価項目	評価の具体項目	現 状	目 標 (年度末の目指す姿)	目 標 達 成 の た め の 方 策	経 過 ・ 達 成 状 況	評 価	改 善 方 策
一人一人が「いきいきと学ぶ」 教育の充実	小学部 個に応じた支援や教育の充実	○児童の状態に応じた学習や活動への参加の仕方について、提案・交渉を重ね、次第に児童の登校が安定してきた。さらに、安心して学習や活動に取り組めるようにするため、効果的な支援のあり方について、保護者や教職員間の連携を深める必要がある。 ○一人学級における主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、授業改善に取り組んでいく必要がある。	○主体的・対話的で深い学びに向けた授業実践の積み重ねを通して、児童が積極的に学習や行事に参加したり、本校の児童との交流に複数回取り組んだりすることができている。	○児童が抱える不安を早期に把握し、学習や活動への参加の仕方について提案・交渉して不安の軽減を図る。また、送迎時等における保護者との会話や、教職員間での情報交換を密に行う。 ○児童自らが考えることを大切にする授業に取り組み、本校の児童との交流を通して、同世代とのコミュニケーション力の向上を図る。			
	中学部 心の安定と意欲を高める支援の充実	○生徒、保護者が本人の病状や学習の状況を理解し、進路決定に向けて学校生活を充実させていくことが必要である。	○個々の生徒の授業への出席率が上がり、安心して学校生活を送ることで、自分の進路についての展望が持てるようになってきている。	○本人、保護者、教職員が生徒の病気や学習状況を共有し、情報交換しながら個に応じた学習指導や進路指導に努める。			
ニーズに対応できる専門性の向上	研究部 主体的・対話的で深い学びを育む授業づくり	○授業研は子どもに負担のない形で公開し、授業研究を深めることができた。 ○学習や行事を通してかかわる力を養い、自己肯定感が育ってきている。 ○学校生活に大きな抵抗感をもつ子どもに対しての方策を研究していく必要がある。	○学習指導要領の視点から、学習の目標を立てたり、「主体的・対話的で深い学び」を育てる授業を検討したりする校内研究が行われている。	○主体的・対話的で深い学びなるように、授業中の子どもの姿や授業の工夫・支援についての実践を整理・分析する。 ○本校で行われる授業改善や子どもたちとの接し方についての研修会に継続的に参加する。			
	支援部 実態に応じた指導・支援につながる研修と教育相談の充実	○病状により、対人関係に不安があったり、集団生活に緊張を抱いていたりする児童生徒が多い。今年度、教職員の半数が入れ替わっていることから、病気を正しく理解し、学校生活における不安や緊張の軽減につながる支援ができる専門性が不可欠である。また、保護者の子育てに対する支援が必要なケースもあり、児童生徒の将来の自立を考えた支援のあり方を検討する必要がある。	○正しい病気の理解に基づき、個に応じた適切な教育相談が日常的になされ、児童生徒や保護者へのアンケートも満足度が高くなっている。	○病気に関する基礎的・基本的な内容の研修を、合同カンファレンスの際に実施する。また、医療機関やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等との連携を図り、適切な支援のあり方について検討する。 ○教育相談計画の提案や、教育相談についての研修会を通して、教育相談の意味や重要性について共通理解を図り、教職員一人一人の意識を高めるようにする。			
健康学校と生活安全における確り保る	健康安全部 心身ともに良好で、登校し学習できる環境づくり	○心の問題が体に表れるので健康観察を丁寧に実施し、その日の児童生徒の心身の状況を把握する必要がある。	○児童生徒の心身の状況を把握することで無理のない形で授業に参加することができ、出席率等が向上する。	○朝の健康観察の他にも常時心身の状況を把握し、情報を共有して支援に努める。 ○自分の心身の状況を訴えることができるように支援する。			

評価基準 A：十分達成 [100～80%] B：概ね達成 [80～60%程度] C：変化の兆し [60～40%程度] D：まだ不十分 [40～30%程度] E：目標・方策の見直し [30%以下]